

理学・工学	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p><input type="checkbox"/> アクチン細胞骨格の調節機構の解明</p> <p><input type="checkbox"/> 下等真核生物におけるストレス応答</p>
key word	
<ul style="list-style-type: none"> ■ ストレス応答 ■ 細胞内情報伝達 ■ リン酸化によるタンパク質の機能調節 	課題解決に役立つシーズの説明
	<p>現在の主な研究対象のひとつが酵素であるため、酵素の調製、保存、活性測定などに関する情報を持っている。酵素を含有する製品や酵素を利用して生産する製品の保存や製造過程について協力できればと考えている。また、今までに酵素を始め様々なタンパク質を精製し、その詳細な性質を明らかにしてきている。</p>
	<p>アクチンはすべての真核生物に存在するタンパク質であり、細胞の基本的生命活動の中心的役割を果たしている。筆者は真正粘菌の変形体にアクチンのリン酸化酵素が存在することを発見し、世界に先駆けたアクチンのリン酸化酵素の精製に成功した。〔1990年〕</p> <p>また、このリン酸化によるアクチンの活性調節機構も明らかにした。〔1992年〕</p> <p>さらに乾燥ストレスが変形体を休眠状態にすることに着目し、乾燥ストレスがアクチンのリン酸化を誘導することを発見した。〔1998年〕</p> <p>最近では、アクチンの脱リン酸化酵素やプロテアーゼも活性を保持したまま休眠体中で保存されることを発見した。〔2002年〕</p> <p>現在は、この乾燥ストレス応答の分子機構を解析している。</p>
<p>古橋 潔 Kiyoshi Furuhashi</p>	
<p>教育学部 教授</p>	
<p>【プロフィール】</p> <p>●専門分野 ・機能生物化学</p> <p>●略歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学博士 ・1984年 東北大学 生物学科 卒業 ・1990年 名古屋大学 理学研究科 分子生物学 博士課程 ・1993年 7月 藤田保健衛生大学 助手 総合医科学研究所 ・1996年 4月 滋賀大学 教育学部 講師 ・1999年 4月 同 助教授 ・2005年 4月 同 教授 	
	企業・自治体へのメッセージ
	<p>食品、化粧品、医薬品などにタンパク質を含有する製品が多数製造されているが、タンパク質の抽出、精製、保存法などに関するノウハウを利用してもらえたらと考えている。</p>